

唐津市都市計画マスタープラン 地域別構想案（まちづくりの目標及び重点方針）

令和6年1月
唐津市

目次

地域別構想検討の流れ …… 1

地域別ワークショップの概要 …… 2

中央地域（唐津、浜玉、北波多） …… 3

1 地域別ワークショップの結果（抜粋） …… 3

2 地域の課題 …… 4

3 地域の役割とまちづくりの目標 …… 6

4 まちづくりの重点方針 …… 7

東部地域（七山） …… 9

1 地域別ワークショップの結果（抜粋） …… 9

2 地域の課題 …… 10

3 地域の役割とまちづくりの目標 …… 12

4 まちづくりの重点方針 …… 13

南部地域（巖木、相知） …… 14

1 地域別ワークショップの結果（抜粋） …… 14

2 地域の課題 …… 15

3 地域の役割とまちづくりの目標 …… 17

4 まちづくりの重点方針 …… 18

西部地域（肥前） …… 19

1 地域別ワークショップの結果（抜粋） …… 19

2 地域の課題 …… 20

3 地域の役割とまちづくりの目標 …… 22

4 まちづくりの重点方針 …… 23

北部地域（鎮西、呼子） …… 24

1 地域別ワークショップの結果（抜粋） …… 24

2 地域の課題 …… 25

3 地域の役割とまちづくりの目標 …… 27

4 まちづくりの重点方針 …… 28

市内5地域（中央、東部、南部、西部、北部）の地域別構想は、それぞれ以下の流れで整理します。

課題の再検討

- 現行の都市マスを策定した当時（平成22年）に整理されていた課題をベースに、地域の課題を再検討。
- 課題の再検討に当たっては、地域の現状や住民ニーズの方向性、現行計画の進捗状況等を踏まえて分析・考察。

地域の課題

- 再検討した結果を踏まえ、次期都市マスで整理すべき地域の課題を抽出。
- 第5回策定委員会（令和5年11月開催）で提示した地域の課題に加え、地域別ワークショップの結果を反映。

■地域の役割

- 現行の都市マスで示された各地域の役割をベースに、昨年度検討した全体構想案や、地域の課題の変化等を踏まえ、地域に求められる役割を再設定。

■まちづくりの目標

- 地域の役割や課題等を踏まえ、地域が目指すべきまちづくりの目標を再設定。

■まちづくりの重点方針

- まちづくりの目標の実現に向け、再検討した地域の課題に取り組んでいくための具体的な方法（重点方針）を整理。

■全体構想（分野別まちづくり方針）と関連する取り組み

- 全体構想の分野別まちづくり方針（土地利用、都市施設など）で整理した各項目のうち、各地域で特筆すべき主な項目（重点方針に掲げた項目を除く）を整理。
※本資料では省略

地域別ワークショップの概要

全2回開催した地域別ワークショップ（WS）では、公募により49名の住民の方にご参加いただき、地域の魅力や課題、将来像などについてグループワークを実施し、オンラインによる成果発表を行いました。

第1回

日時	2023年11月1日 19時～21時		
参加人数	中央地域	16名	合計 44名
	東部地域	5名	
	南部地域	8名	
	西部地域	5名	
	北部地域	10名	
内容	地域の魅力（特色・資源）や、地域が抱える課題（改善点）について		

第2回

日時	2023年11月22日 19時～21時		
参加人数	中央地域	14名	合計 38名
	東部地域	5名	
	南部地域	9名	
	西部地域	3名	
	北部地域	7名	
内容	地域の魅力や課題を踏まえた地域の将来像（目指すべき姿）と、その実現のために必要な取り組みについて		

当日の様子



地域の魅力
（特色・資源）

- 福岡へのアクセスが良く、コスメ産業など産業分野のポテンシャルもある
- 他地域に比べ人口減少のペースが緩やかで、移住ニーズも高い
- 唐津くんちや浜崎祇園祭、唐津焼、岸岳古窯跡群などの歴史・観光資源を多く有している
- 日常生活に必要な機能（商業・医療など）が集積しており、暮らしやすい（子育てもしやすい）

地域の課題
（改善点）

- 就職・進学を期に、若年層が流出している
- 所有者意識や相続問題により空き家が増加し、空き家のマッチングも進んでいない
- マリンスポーツなどのレジャー・スポーツ施設が少ない
- 地域の担い手不足により、耕作放棄地の増加や、虹の松原の維持管理等が問題となっている
- 市民が自由に活動し、発信できるような場（機会）が少ない

地域の
将来像

- 老若男女問わず誰もが安心・安全に暮らし続けられるようなまち
- 若者が地域に愛着を持ち、帰ってきたくなるまち
- うちからもソトからも愛されるまち
- 住民・移住者・観光客が活動・交流がしやすいまち

地域に必要な
取り組み

- 移住者と空き家所有者とのマッチング等による空き家の有効活用や古民家の再生
- 1次産業の担い手不足を解消するような取組み（ファーマーズマーケット等）
- 空き家・空き店舗を活用したチャレンジショップ
- 買い物が不便な高齢者等のための移動販売
- 企業誘致の推進（働く場所の確保）
- 伝統文化の担い手の育成
- 文化・スポーツ施設の充実

A 現行の都市マス策定当時（平成22年）の課題

■ **中心市街地の再生に寄与する地域づくりが必要**

- 再開発事業の促進やまちなか居住の推進、観光・交流資源の活用等による中心市街地の再生
- 市民協働のまちづくり活動団体への継続的な支援・育成による求心力向上

■ **中心部と唐津港との連携強化と、海（水辺）を身近に感じられる空間づくりが必要**

- 産業拠点および観光・交流拠点としての唐津港の機能強化
- 暮らしの中で海（水辺）を身近に感じ利用できる空間づくりの促進

■ **広域交通網の早期整備と各拠点の魅力向上により、観光・産業の振興を図る地域づくりが必要**

- 西九州自動車道および佐賀唐津道路の2つの高速交通体系の早期整備の促進
- 複数のICを介した各拠点の魅力向上および連携強化による観光客等の流入促進

■ **地域固有の良好な自然環境や景観と調和した土地利用が必要**

- 美しい自然環境や地域固有の景観の保全・活用
- 都市計画制度等の活用や市民協働の取り組みによる調和のとれた土地利用の促進

■ **生活を支える地域生活拠点の維持・再生と、歩行空間や公共交通の充実、浸水対策など安全・快適な生活空間づくりが必要**

- 住み慣れた地域で持続的に生活していくための環境づくり（暮らしの安全の確保、生活の質の向上）
- 各地域生活拠点（浜玉・北波多）の特性を踏まえた地域再生

B 課題の再検討（「地域の現状」「住民ニーズの方向性」「現行計画の進捗状況」をもとに分析・考察）

<中心市街地の空洞化>

- 若者の流出などによる人口減少・高齢化の進行等に伴い、空き家・空き店舗等が増加し、賑わいが失われている。
- 郊外型大型店舗の立地により、中心市街地の空洞化が進み、居住環境の悪化や災害リスクの拡大が懸念されている。
- 近年は大手ロセンタービル（市民交流プラザほか）や複合商業施設KARAEの開業などにより、中心市街地における賑わいの創出につながっている。

<土地利用の変化>

- 西九州自動車道のIC周辺および国道202号沿道における開発の進行により、特に用途地域外縁部において、土地利用に大きな変化が生じている。
- 市街地周辺部では、虫食的な農地の宅地開発による非効率な市街化が進行している。

<広域交通網の整備促進>

- 西九州自動車道および佐賀唐津道路の一部区間は開通しているが、地域間交流の拡大や産業振興を図るべく、引き続き整備を促進していく必要がある。

<日常生活を支える公共交通の整備が不十分>

- 地域住民の足となる公共交通の利便性に関する満足度が低い。

<都市施設の老朽化・市民のニーズの不一致>

- 駅や公共施設のバリアフリー対策が十分でない。
- 子育て世帯が増えている一部地域などでは、子供の遊び場や公園が十分に確保できていない。

<地域の生活を支える地域生活拠点の活力低下>

- 子育て世帯や高齢者にやさしいまちとしての役割が求められている。
- 働く場の確保や移住者の増加に向けた取り組みが求められている。

<自然環境や歴史・文化遺産の保全と活用>

- 市民生活の中において海（水辺）を身近に感じる機会が少ない。
- 観光・交流資源などの更新や老朽化に伴う撤去等により、一部で不調和な町並みがみられる。
- 地域の魅力である自然を活かした交流の創出（マリンスポーツなど）や、景観・伝統文化などの交流資源としての活用が求められている。
- 地域の担い手不足により、耕作放棄地の増加や、虹の松原の維持管理等が問題となっている。

<災害リスクの高まり>

- 松浦川沿川などの浸水想定区域や、地域内に土砂災害警戒区域等が点在しており、近年頻発する集中豪雨等による災害発生の危険性が高い。

C 地域の課題（「B 課題の再検討」の内容を踏まえて再設定した現在の課題）

課題1 都市中心拠点（中心市街地）における求心力の向上

- ① 都市機能および居住の誘導による都市中心拠点の機能強化
- ② 中心市街地の再生による賑わいの創出（空き店舗などの低未利用地の解消、**空き家の有効活用によるまちなか居住の推進および居住環境の悪化防止** など）
- ③ **民間のまちづくり活動・団体等への継続的な支援・育成**や、公民連携の取組促進
- ④ **多様な働き方・暮らし方ができる環境づくり**

課題2 観光・交流拠点および産業拠点の機能強化

- ① 佐賀唐津道路等の地域間交流を促進する交通網の整備促進による産業振興、観光交流の拡大
- ② 複数のICを介した地域内の各拠点の魅力向上と連携強化による観光客等の流入促進
- ③ **歴史・文化的価値のある観光・交流資源の連携・活用**
- ④ 産業拠点および観光客船の寄港誘致等による観光・交流拠点としての唐津港の機能強化
- ⑤ **若者が魅力に感じるような雇用の創出による人口流出の抑制と地域経済の活性化**

課題3 地域固有の自然環境や景観と調和した土地利用

- ① 美しい自然環境や地域固有の景観の保全・**レジャーなどへの活用**
- ② 都市計画制度等の活用や市民協働の取り組みによる調和のとれた土地利用の推進（市街地外縁部の土地利用のコントロール など）
- ③ 暮らしの中で海（水辺）を身近に感じることができる憩いの空間づくり
- ④ **1次産業の担い手の確保・育成による地域固有の自然環境の保全**

課題4 誰もが快適で安心・安全に暮らし続けることができる環境づくり

- ① 地域生活拠点における生活利便機能の維持・集約
- ② **地域の実情に応じた公共交通手段の確保（公共交通の利便性向上・利用促進、次世代モビリティの検討、安全な歩行空間の確保 など）**
- ③ 離島における生活利便性の確保と離島航路の維持
- ④ **高齢者や子育て世代のニーズに応じた暮らしやすい環境づくり**（公共施設のバリアフリー化、通学路の安全性確保、子どもの遊び場や公園の適正配置 など）
- ⑤ 災害リスクに応じたハード・ソフト両面からの防災・減災対策
- ⑥ **移住先としての魅力を高め、移住者が安心して生活できる環境づくり**

■地域の役割

■まちづくりの目標

■まちづくりの重点方針

- 中央地域に求められる役割を明確にした上で、まちづくりの目標を設定し、左記で整理した課題に取り組んでいくための具体的な方法（重点方針）をとりまとめる。

■地域の役割

現行計画で示された「中央地域に求められている役割」をもとに、昨年度検討した全体構想案や、地域の課題の変化を踏まえ、中央地域の役割を再設定。

周辺地域の魅力をも引き出し、本市全体の活力をけん引していく役割

多様な暮らしのニーズに応え、誰もが住んでみたい、住み続けたいと思える環境を実現する役割

- 中央地域の魅力向上を図ることはもとより、観光や景観等の面で、周辺地域との連携・調和を意識し、周辺地域の魅力を引き出しながら、本市全体の活力をけん引する。
- 人口流出による地域活力の低下を抑えるため、誰もが安心・安全に住み続けられる環境を実現し、移住者を含め、多様な暮らしのニーズに応えることで、定住者人口を確保する。

■まちづくりの目標

中央地域の役割や課題等を踏まえ、地域が目指すべきまちづくりの目標を再設定。

唐津市の要として、多様な主体が連携しながら賑わいと交流を創出し、市全体の活力をけん引するまちづくり

- 都市中心拠点の求心力向上を図る「唐津の顔」としての中心市街地の再生や、西九州自動車道等の高速交通体系の整備と産業・観光分野との連携等により、本市の要として市全体の活力創造を目指す。
- 行政だけでなく、市民やまちづくり団体、企業など、多様な主体が協力し合い、賑わいと交流を創出し、地域への愛着を育むようなまちづくりを目指す。

重点方針1
「唐津の顔」として、賑わいと魅力のある中心市街地の再生

取組方針	主な取組み
① 都市機能の維持・誘導による中心市街地の再生	● 立地適正化計画に基づく都市機能の維持・誘導
② 空き家等の低未利用地の有効活用によるまちなか居住の促進	● 空き家バンク制度の運用・活用促進 ● 民間事業者等との連携による低未利用地の活用促進
③ 交通結節点の機能・連携強化等による住民・来訪者の利便性向上	● 唐津駅北口広場の機能再構築
④ 歴史や文化などの観光・交流資源の保全・活用等によるまちなかの再生	● 景観計画の重点区域や景観重要公共施設の指定・運用
⑤ 多様な主体の連携・協働による中心市街地の再生	● 公民連携手法（エリアマネジメントなど）の活用検討

重点方針2
広域交通ネットワークを活かした観光・交流の拡大と産業の振興

① 西九州自動車道、佐賀唐津道路の高速交通体系の整備促進	● 西九州自動車道、佐賀唐津道路の整備促進 ● 唐津大橋4車線化の早期整備
② 唐津、浜玉、北波多の各ICを周遊起点とした観光・交流軸（観光周遊ルート）の形成と、各拠点における産業・観光面の展開	● 唐津、浜玉、北波多の各IC周辺のアクセス環境の整備 ● 唐津、浜玉、北波多の各拠点（観光・交流拠点、産業拠点など）の魅力向上
③ 観光・交流拠点および産業拠点としての唐津港の機能強化	● 唐津港の中長期ビジョンに基づく物流、産業、賑わい等の各機能の強化
④ 海（水辺）を身近に感じることができる空間づくり	● 水辺のプロムナードの整備等によるレクリエーション空間の形成

重点方針3
 地域固有の自然環境や景観に
 配慮した土地利用の調整

取組方針	主な取組み
① 虹の松原、鏡山、唐津城などの景観拠点の保全・活用と、景観計画との連携による国道周辺の景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然公園法等の適切な運用による自然環境・景観の保全および観光・交流資源としての活用
② 松浦川を軸とした景観や環境に配慮した公共空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 水辺の回廊の整備
③ 多様な主体の連携・協働による自然環境の保全や景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 景観まちづくり専門家会議や景観まちづくり推進委員制度を活用した景観づくり ● 景観計画や景観重要公共施設ガイドラインの運用

重点方針4
 地域における生活の質の向上
 による地域生活拠点の維持・再生

① 地域生活拠点を中心とした生活利便機能の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域生活拠点への生活利便機能の維持・集約 ● 離島における生活利便機能の維持 ● 離島航路の維持 ● 公共交通の利用促進および次世代モビリティの導入 ● 公園の維持管理および適正配置の検討
② 自然災害対策をはじめとする暮らしの安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地適正化計画に基づく居住誘導区域への居住の誘導および防災指針の運用 ● 流域治水プロジェクトの推進による流域の安全性確保 ● 防犯灯の設置等による防犯まちづくりの推進 ● 所有者等による空き家等の適切な管理の促進 ● 自主防災組織の設置促進と地域コミュニティの維持
③ 移住者を含め、多様な暮らしのニーズに対応した環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● シェアオフィスやコワーキングスペースの整備等による多様な働き方・暮らし方の実現

地域の魅力 （特色・資源）

- 檜原湿原や玉島川といった豊かな自然があり、多様な生物が生息している
- 七山のブランディングが進められており、移住者と住人との交流が活発化している
- 多くの人々が七山の食材を求めて鳴神の庄を訪れており、生産者の支えになっている
- アドベンチャーツーリズムやエコツーリズムとしてのポテンシャルがある

地域の課題 （改善点）

- 観光客の受け皿となる宿泊施設や、観光案内所の不足などにより、地域の観光資源が十分に活用されていない
- 空き家が増加する一方、移住者の受け皿となる質の良い空き家が少ない
- 高齢者をはじめ、日常生活の移動に対して不便を感じる人が多い
- 第1次産業の従事者の減少により耕作放棄地や獣害が増加し、災害リスクも高まっている

地域の 将来像

- 地域と行政の協力により、産業や観光を盛り上げることで、移住やUターンへの興味を創出するまち

地域に必要な 取り組み

- 七山暮らしの生の声を発信する
- 耕作放棄地を活用したアウトドア施設等の整備
- 観光農業イベント（農業体験など）の実施
- 市が所有する公共施設の利活用とリノベーション
- 鳴神公園を活用したイベントの定期開催
- 住民主体の空き家バンク、農地バンクの実施
- 移住を体験できる施設の設置やイベントの開催

A 現行の都市マス策定当時（平成22年）の課題

■ 多面的機能を有する森林環境の保全やレクリエーション資源として活用できる環境づくりが必要

- 多面的機能を有する森林環境の保全
- 所有者だけでなく地域全体で森林を支えるという住民意識の醸成
- トレッキングや森林浴など、レクリエーション資源としても活用できる環境づくり

■ 「山里」の資源を活かした都市・農山村交流のさらなる発展に向けた取り組みが必要

- 都市・農山村交流の維持・発展のための年間を通じた来訪者獲得の取組促進
- 「ななやまブランド」を活用した都市・農山村交流の継続に向けた農林業従事者の高齢化・後継者不足の対策検討

■ 南部地域方面等との観光・交流軸となる道路網の強化や、回遊性向上を促す案内標示の充実が必要

- 観光・交流軸となる国県市道の改良によるアクセシビリティの向上（都市・農山村交流の促進による地域活力の向上）
- 案内標示の充実やデザイン統一等による他地域への回遊性を向上させるような仕掛けづくり

■ 生活の中心となる地域生活拠点の維持・再生と、防災対策や道路網、公共交通充実など、安全・安心・快適な生活空間整備が必要

- 地域生活拠点における商業機能などの地域住民の日常サービスに対応できる機能の維持・再生（買い物、公共交通、自然災害への対応など）
- 基幹産業である農林業環境の整備による雇用の場の維持
- 高齢社会を見据え、地域全体で暮らしているという安心感のある地域コミュニティづくり

B 課題の再検討（「地域の現状」「住民ニーズの方向性」「現行計画の進捗状況」をもとに分析・考察）

＜地域の生活を支える地域生活拠点の活力低下＞

- 地域内に小売店舗が少なく、また、高齢化率の高いエリアをカバーできていないため、**日常の買い物の利便性に関する満足度が低い。**
- **人口減少、高齢化等に伴う不良空き家の増加**により、居住環境が悪化している。
- 子育て世帯や高齢者にやさしいまちとしての役割が求められている。
- **働く場が少ないため、若者が流出している。**

＜豊かな自然環境の保全＞

- **農林業従事者の高齢化や後継者不足等**により、**荒廃林や耕作放棄地の増加、獣害の増加**など、環境の悪化が懸念されている。
- 美しい自然、緑の豊かさに関しては、満足度、期待度ともに高く、引き続き維持・充実が求められる。
- 食糧生産地や環境に優しいまちとしてのイメージ形成を担う役割が求められている。

＜観光資源の活用が不十分＞

- **観光インフラの整備が不十分で、地域の観光資源を活かしていない。**

＜地域の移動や生活を支える公共交通の改善＞

- 地域住民の足となる**公共交通に関する満足度は低い**が、予約型乗合タクシーの運行開始等により、対策が進められている。

＜公共施設などの老朽化・市民のニーズに合わない施設などの増加＞

- 公共施設のバリアフリー対策が十分でない。
- **身近で日常的に利用できる小さな公園・広場の整備**や、河川沿いなどのゆっくり歩ける散策道の整備に関するニーズが高い。

＜災害リスクの高まり＞

- **地域内に土砂災害の恐れのある区域が多数点在しており、近年頻発する集中豪雨等による災害発生の危険性が高い。**

C 地域の課題（「B 課題の再検討」の内容を踏まえて再設定した現在の課題）

課題1 継続的な都市・農山村交流による地域振興

- ① 七山の豊かな自然や、その中で育まれた農産物、**これらを体験できる観光・交流資源を活用した都市・農山村交流の継続による地域振興**
- ② **都市・農山村交流を促すための環境づくり**

課題2 多面的機能を有する自然環境の保全・活用

- ① **農林業従事者の高齢化や後継者不足への対策**
- ② 所有者だけでなく地域全体で森林を支えるという住民意識の醸成
- ③ レクリエーション資源としての森林の積極的な活用
- ④ 持続的な生産確保に向けた農地の保全と、**耕作放棄地の未然防止および再生**

課題3 道路網の整備等による観光・交流軸の強化と回遊性の向上

- ① 福岡都市圏、佐賀都市圏および南部地域方面からの観光・交流軸となる国県市道の改良によるアクセス性の向上（**都市・農山村交流による地域活力の向上**）
- ② 周辺観光資源の紹介などの案内標示の充実やデザインの統一、屋外広告物規制などによる他地域への回遊性を向上させるような仕掛けづくり

課題4 誰もが快適で安心・安全に暮らし続けることができる環境づくり

- ① 地域生活拠点における生活利便機能の維持・集約
- ② 地域の実情に応じた公共交通手段の確保（**公共交通の利便性向上・利用促進、次世代モビリティの検討**、安全な歩行空間の確保 など）
- ③ 高齢者や子育て世代のニーズに応じた暮らしやすい環境づくり（公共施設のバリアフリー化、**通学路の安全性確保** など）
- ④ 災害リスクに応じたハード・ソフト両面からの**防災・減災対策**

■ 地域の役割

■ まちづくりの目標

■ まちづくりの重点方針

- 東部地域に求められる役割を明確にした上で、まちづくりの目標を設定し、左記で整理した課題に取り組んでいくための具体的な方法（重点方針）をとりまとめる。

■ 地域の役割

現行計画で示された「東部地域に求められている役割」をもとに、昨年度検討した全体構想案や、地域の課題の変化を踏まえ、東部地域の役割を再設定。

豊かな自然や生態系を維持・保全するとともに、これらの資源を活用した都市・農山村交流の展開により、本市全体に活力を波及させる役割

- 東部地域に広がる山林地帯の維持・保全により、林業だけでなく、生活用水（地下水）、土砂災害の防止、温暖化の抑制など、市全体の自然環境を支える。
- 地域の資源を活用した都市・農山村交流の展開により、都市部からの交流人口の増加や移住促進などに波及させる。

■ まちづくりの目標

東部地域の役割や課題等を踏まえ、地域が目指すべきまちづくりの目標を再設定。

豊かな自然環境を活かした都市・農山村交流の地域づくり

- 美しく豊かな自然環境の保全と、地域の農産物や体験型農業など、自然環境を活用した都市と農山村の交流拡大による地域活性化を目指す。
- 地域の特性を活かした都市・農山村交流の展開により、都市部からの交流人口の増加、さらには**移住先として選ばれる魅力ある地域**を目指す。

重点方針1

豊かな自然と、これを活用した体験活動などによる都市・農山村交流の促進

取組方針	主な取組み
① 観光施設の機能充実による「観光・交流拠点」としての位置づけの強化	● 民間と連携したロフティ七山や鳴神温泉などのゆの運営による都市・農山村交流の促進
② 観光客の回遊性向上を意識した取り組みの展開	● 未改良区間の早期整備
③ グリーンツーリズム等の農業+αによる都市・農山村交流の促進や、耕作放棄地の利活用検討	● 地元まちづくり団体との連携による都市・農山村交流事業の実施検討 ● 農業体験の場としての耕作放棄地の活用検討

重点方針2

多面的な機能を有する森林や自然環境の保全・活用と、生物多様性の保全

① 多面的機能を発揮する多様な森づくりと森林資源の利活用	● 森林組合等の担い手の支援 ● 森林環境譲与税を活用した間伐や森林作業道の整備促進
② 都市住民をひきつける農山村らしい風景の保全・活用	● 自然環境を保全しながら、自然体験や学習ができる景観まちづくりの推進
③ 檜原湿原（景観拠点）等の環境保全、および観光資源としての活用	● 檜原湿原自然環境保全事業（県）の推進

重点方針3

地域における生活の質の向上による地域生活拠点の維持・再生

① 地域生活拠点を中心とした生活利便機能の維持・向上	● 地域生活拠点への生活利便機能の維持・集約 ● 公共交通の利用促進および次世代モビリティの導入 ● 公園の維持管理および適正配置の検討
② 自然災害対策をはじめとする暮らしの安全性の確保	● 居住における安全性の確保（災害リスクの高い区域からの移転促進、災害に強いインフラ整備など） ● 防犯灯の設置等による防犯まちづくりの推進 ● 所有者等による空き家等の適切な管理の促進 ● 自主防災組織の設置促進と地域コミュニティの維持

地域の魅力 （特色・資源）

- 豊かな自然景観（平之、作礼、山瀬、伊岐佐地域）を有している
- JR唐津線や、一部エリアにはJR筑肥線も通っており、比較的公共交通の利便性が高い
- NPO法人よかところ相知などの地域づくりの活動が活発に行われている

地域の課題 （改善点）

- 働く場が少ないため人口が流出しており、人口減少にともない空き家が増加している
- 景観地へのアクセスが悪いため、地域資源を観光に活かせていない
- オンデマンドタクシーの認知度が低い
- 急傾斜地が多いため土砂災害リスクが高く、水害も多い
- 買い物ができる場所（店舗）が減り、日常生活が不便
- 第1次産業の従事者の減少により、耕作放棄地や獣害が増加している

地域の 将来像

- 自然を活かした教育、個性を育む教育を中心に、誰もが地元愛と自発性をもって、やりたいことに挑戦できる地域
- 高齢者をはじめ誰もが地域で暮らし続けることができ、交流が生まれるまち

地域に必要な 取り組み

- デマンドタクシーの普及・活用促進
- 厳木駅の環境改善・維持活動
- 天山を活用したアクティビティ体験（登山等）
- 空き家や未利用公共施設の活用（閉校した小学校校舎の活用など）
- 将来を見据えた森林整備・遊休農地の活用
- 新産業集積エリア唐津への企業誘致の推進

A 現行の都市マス策定当時（平成22年）の課題

■ 水源かん養など多様な機能を持つ森林環境の保全・活用が必要

- 水源かん養や土砂災害防止のほか、紅葉を楽しむ癒しの場やグリーンツーリズムの場としても期待される森林の保全・活用
- 所有者だけでなく地域住民も参加した森林再生の取組促進（森林が有する多面的機能の維持）

■ 都市骨格周辺をはじめ景観に配慮した空間づくりが必要

- 松浦川、厳木川沿川における良好な景観形成に配慮した公共施設整備
- 市民協働による景観づくりの継続的な取り組みと、他地域への展開

■ 広域交通網の早期整備および連携した産業拠点づくりが必要

- 厳木工業団地の整備に伴う企業誘致の推進
- 高速交通体系の早期整備促進による新たな産業拠点づくり（新規就業者の居住環境の確保など）

■ 観光・交流資源の連携・活用による地域振興を促す取り組みが必要

- 地域内の観光・交流資源の周遊および他地域への観光周遊の促進による地域活力の向上
- 観光・交流資源としての「萩野の棚田」を活用した都市・農山村交流および市民協働による地域（景観）づくりの継続

■ 生活の中心となる地域生活拠点の維持・再生と、生活排水対策、浸水対策、公共交通充実など、安全・安心・快適な生活空間整備が必要

- 住み慣れた地域で永続的に暮らしていける快適な環境づくり（生活排水対策、浸水対策、公共交通対策など）
- 各地域生活拠点（厳木・相知）の特性を踏まえた地域再生（安全な歩行空間づくり、既存商店の維持・再生、利用しやすいバス路線の検討など）

B 課題の再検討

（「地域の現状」「住民ニーズの方向性」「現行計画の進捗状況」をもとに分析・考察）

＜アクセス性に優れた立地条件を有する工業団地の活用が不十分＞

- 新産業集積エリアとして整備された厳木工業団地について、佐賀・長崎方面や福岡都市圏へのアクセス性に優れた立地条件を有しているが、企業誘致が実現できていない。
- 工業・産業のまちとしての役割が求められている。
- 佐賀唐津道路の早期整備が求められている。

＜地域の移動や生活を支える公共交通の改善＞

- 地域住民の足となる公共交通に関する満足度は低い、デマンドタクシーの運行等により、対策が進められている。

＜地域の生活を支える地域生活拠点の活力低下＞

- 高齢化率が高く、限界集落に近い集落もみられる。
- 人口減少、高齢化等に伴う不良空き家の増加により、居住環境の悪化が懸念される。
- 子育て世帯や高齢者にやさしいまちとしての役割が求められている。
- 買い物ができる店舗が少ないため、日常生活における買い物が不便となっている。
- 地域コミュニティが希薄化しており、消防団などが機能しなくなる恐れがある。

＜自然環境や歴史・文化の保全と活用＞

- 松浦川や厳木川沿川における環境・景観に配慮した公共空間づくりが求められている。
- 観光資源となりうる景観地へのアクセスが良くない。
- 農林業従事者の高齢化や後継者不足による荒廃林や耕作放棄地の増加、獣害の増加など、農林地の環境悪化が懸念されている。
- 地域の魅力である自然・景観・伝統の活用が求められている。
- 伝統芸能や文化、自然環境などの観光・交流資源を有しているが、アクセスが良くないことから、来訪者の立ち寄りが少ない。

＜災害リスクの高まり＞

- 松浦川や厳木川沿川などの浸水想定区域や、地域内に土砂災害警戒区域等が点在しており、近年頻発する集中豪雨等による災害発生の危険性が高い。

C 地域の課題（「B 課題の再検討」の内容を踏まえて再設定した現在の課題）

課題1 多様な機能を有する森林環境や農地の保全・活用

- ① 水源かん養や土砂災害防止のほか、紅葉を楽しむ癒しの場やグリーンツーリズムの場としても期待される森林の保全・活用
- ② 所有者だけでなく地域全体で森林を支えるという住民意識の醸成
- ③ 持続的な生産確保に向けた農地の保全と、耕作放棄地の未然防止および再生

課題2 景観に配慮した空間づくりや観光・交流資源の連携・活用による地域振興

- ① 松浦川、巖木川沿川における良好な景観形成に配慮した公共施設等の整備
- ② 自然・景観や伝統芸能・文化などの資源の活用による地域振興
- ③ 地域内の観光・交流資源の周遊および他地域への観光周遊の促進による地域活力の向上
- ④ 観光・交流資源としての「蕨野の棚田」を活用した都市・農山村交流および市民協働による地域（景観）づくりの継続

課題3 アクセス性に優れた立地条件を活かした産業拠点の機能強化

- ① 佐賀唐津道路の早期整備促進による産業拠点の機能強化
- ② 新産業集積エリア唐津への企業誘致の推進と雇用機会の創出

課題4 誰もが快適で安心・安全に暮らし続けることができる環境づくり

- ① 地域生活拠点における生活利便機能の維持・集約
- ② 地域の実情に応じた公共交通手段の確保（公共交通の利便性向上・利用促進、次世代モビリティの検討、JR駅の利活用、安全な歩行空間の確保 など）
- ③ 高齢者や子育て世代のニーズに応じた暮らしやすい環境づくり（公共施設のバリアフリー化・利活用、通学路の安全性確保 など）
- ④ 災害リスクに応じたハード・ソフト両面からの防災・減災対策

■地域の役割

■まちづくりの目標

■まちづくりの重点方針

- 南部地域に求められる役割を明確にした上で、まちづくりの目標を設定し、左記で整理した課題に取り組んでいくための具体的な方法（重点方針）をとりまとめる。

■ 地域の役割

現行計画で示された「南部地域に求められている役割」をもとに、昨年度検討した全体構想案や、地域の課題の変化を踏まえ、南部地域の役割を再設定。

豊かな森林や、都市骨格となる松浦川・巖木川を有する地域として、本市の自然環境・景観を支える役割

新産業集積エリア唐津への企業誘致等により、新たな雇用を創出する産業拠点的形成し、本市の活力を向上する役割

- 天山・脊振山系や、松浦川・巖木川など、豊かな自然環境を保全し、これら自然の持つ多面的機能の維持や、景観づくりを推進する。
- 新産業集積エリア唐津への企業誘致の推進により、新たな雇用機会を創出し、産業拠点として、本市の活力向上を推進する。

■ まちづくりの目標

南部地域の役割や課題等を踏まえ、地域が目指すべきまちづくりの目標を再設定。

松浦川・巖木川を中心とした多彩な地域資源と高速交通体系を活かした産業との調和による水と緑の地域づくり

- 佐賀・長崎方面や福岡都市圏へのアクセスの良い立地を活かした「新産業集積エリア唐津」への企業誘致等により、新たな雇用の創出を目指す。
- 都市骨格となる松浦川・巖木川沿川の公共空間づくりや、周辺の観光・交流資源との連携による地域振興を目指す。

重点方針1

多様な機能を有する森林環境の保全と、レクリエーション空間としての活用

重点方針2

豊かな自然や景観に配慮した空間づくりと、観光・交流資源の連携・活用による地域振興

重点方針3

高速交通体系を活かした産業の振興

重点方針4

地域における生活の質の向上による地域生活拠点の維持・再生

取組方針	主な取組み
① 多面的機能を持続的に発揮させる多様な森づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 林道の整備・維持管理 ● 市民団体による広葉樹の植栽等 ● 森林組合等の担い手の支援 ● 森林環境譲与税を活用した間伐や森林作業道の整備促進
② 森林資源を活用した新たな雇用の場としての仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● バイオマスエネルギーの研究
③ キャンプ場などのレクリエーションや環境学習の場としての活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 八幡岳キャンプ場の管理運営
① 自然環境や景観に配慮した公共空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 松浦川、巖木川のかわまちづくり
② 市民協働による環境・体験学習の場となる水辺空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO法人アザメ会による小学校の自然学習 ● 出逢いの水辺の維持管理
③ 自然や歴史・文化など多彩な観光・交流資源の保全・活用による都市・農山村交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史・文化の継承による地域づくり
④ 道の駅を活用した観光情報発信等による観光交流と地域振興の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 風のふるさと館を活用した地元の生産農家との連携による農作物販売
⑤ 農林業+αによる地域活性化施策の展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 蕨野の棚田におけるふれあい交流事業 ● 担い手（後継者）の確保・育成
① 産業・観光振興につながる佐賀唐津道路の早期整備の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 佐賀唐津道路の早期整備
② 新産業集積エリア唐津への企業誘致の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 新産業集積エリア唐津への企業誘致
① 地域生活拠点を中心とした生活利便機能の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域生活拠点への生活利便機能の維持・集約 ● 公共交通の利用促進および次世代モビリティの導入 ● 公園の維持管理および適正配置の検討
② 自然災害対策をはじめとする暮らしの安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 居住における安全性の確保（災害リスクの高い区域からの移転促進、災害に強いインフラ整備など） ● 防犯灯の設置等による防犯まちづくりの推進 ● 所有者等による空き家等の適切な管理の促進 ● 自主防災組織の設置促進

地域の魅力
（特色・資源）

- 海や山などの自然に恵まれており、鷹島肥前大橋や棚田などの美しい景観を有している
- 国道・県道が整備されており、車による移動がしやすい
- 自然災害が比較的少ない

地域の課題
（改善点）

- 棚田等の後継者不足による維持管理の問題がある
- 病院が少なく医療体制が脆弱なため、高齢者等にとって生活が不便
- 公共交通の利便性が悪い
- 集落内は道幅が狭く、街灯も少ないため、暗い道が多い
- 子どもの遊び場が少ない

地域の
将来像

- 自然体験ができる交流と賑わいのあるまち
- 豊かな自然の中で、子どもから高齢者まで誰もがゆっくりと暮らし続けられるまち

地域に必要な
取り組み

- 地域の実情に合った公共交通やデマンド交通の整備
- グリーンツーリズムの促進に向けた空き家の活用や宿泊施設の整備
- 公園の整備
- 自然体験ができる環境づくり
- 安心・安全に歩行できる道路の整備
- 大型直売所の整備など第1次産業従事者と連携した地域の魅力向上
- 二地域居住ができる環境づくり

A 現行の都市マス策定当時（平成22年）の課題

■ 玄海国定公園に指定された沿岸部など美しい自然環境・景観の保全が必要

- 後世に残していくべき価値ある地域資源および観光客を流入させるための資源としての美しい自然環境・景観（いろは島、大浦の棚田など）の維持・保全

■ 既存の観光・交流資源・施設の活用、および農漁業との連携による地域振興が必要

- 観光・交流資源（いろは島、大浦の棚田、ふれあい自然塾ひぜんなど）と農漁業との連携による魅力発信と地域振興

■ 中央・北部地域方面等との観光・交流軸となる道路の整備や、回遊性を促す案内標示の充実が必要

- 美しい自然景観や周辺の観光・交流資源の魅力向上と、周遊を促す道路整備および案内表示の充実
- 地域内に点在する観光・交流資源までのアクセスルートとなる道路網の強化（他地域および県域を越えた観光交流の促進）

■ 生活を支える地域生活拠点の維持・再生と、道路改良や公共交通充実、上下水道整備など、安全・安心・快適な生活空間整備が必要

- 住み慣れた地域で永続的に暮らしていける快適な環境づくり（生活排水対策、集落内道路・歩行環境の整備など）
- 地域生活拠点における安定したサービスの提供

B 課題の再検討（「地域の現状」「住民ニーズの方向性」「現行計画の進捗状況」をもとに分析・考察）

＜地域生活を支える地域生活拠点の活力低下＞

- 人口減少、高齢化等に伴う**不良空き家の増加**により、居住環境の悪化が懸念される。
- **働く場が少ないため、特に若年層の人口が流出している。**
- 地域全域の高齢化率が40%を超え、高齢者の孤立化などのリスクがある。
- 小売店舗の人口カバー率が市内で最も低い地域であり、日常の買い物が不便である。
- **病院が少なく医療体制が脆弱なため、高齢者にとって生活が不便**

＜豊かな自然環境の保全＞

- 美しい自然環境に関しては、満足度、期待度ともに高く、引き続き維持・充実が求められる。
- 地域内の豊富な観光・交流資源の活用が求められている。
- 観光・交流資源や農漁業といった地域のポテンシャルはあるが、**案内板などの設置が不十分なため、観光客等の回遊が少ない。**
- **観光客が滞在できるような場所が少ない。**
- 食糧生産地や環境に優しいまちとしてのイメージ形成を担う役割が求められている。
- **棚田等の後継者不足により、維持管理が問題となっている。**

＜地域の移動や生活を支える公共交通の整備が不十分＞

- 乗り合いタクシーなどの地域の実情に応じた**交通手段の確保・強化**が求められている。

＜公共施設などの老朽化・市民のニーズに合わない施設などの増加＞

- 通学路にもなっている国道204号について、**歩道未設置箇所が多い。**
- 公共施設などのバリアフリー対策が十分でない。
- 身近で日常的に利用できる小さな公園・広場の整備が求められている。

＜災害リスクの高まり＞

- 地域内に土砂災害の恐れのある区域が多数点在しており、近年頻発する集中豪雨等による災害発生の危険性を有する。

C 地域の課題（「B 課題の再検討」の内容を踏まえて再設定した現在の課題）

課題1 玄海国立公園に指定された沿岸部など美しい自然環境・景観の保全

- ① 自然公園法等の運用による自然環境の保全
- ② 地域固有の美しい自然景観の保全と、風力発電の風車などの人工景観との共存
- ③ 市民協働による棚田の保全と活用

課題2 観光・交流資源の活用と農漁業との連携による地域振興

- ① 豊富な観光・交流資源と、地域の基幹産業である農漁業との連携による都市・農漁村交流の促進
- ② 持続的な生産確保に向けた農地の保全と、耕作放棄地の未然防止および再生
- ③ 第1次産業の担い手不足の解消

課題3 他地域との観光交流を促す道路網の整備や、回遊性を高める案内表示の充実

- ① 美しい自然景観や周辺の観光・交流資源の魅力向上と、他地域との観光交流を促す道路整備および案内表示の充実
- ② アクセス性の向上による地域内の観光・交流資源までの回遊促進

課題4 誰もが快適で安心・安全に暮らし続けることができる環境づくり

- ① 地域生活拠点における生活利便機能の維持・集約
- ② 地域の実情に応じた公共交通手段の確保（公共交通の利便性向上・利用促進、次世代モビリティの検討、安全な歩行空間の確保 など）
- ③ 離島における生活利便性の確保と離島航路の維持
- ④ 高齢者や子育て世代のニーズに応じた暮らしやすい環境づくり（公共施設のバリアフリー化、通学路の安全性確保、子どもの遊び場の整備 など）
- ⑤ 災害リスクに応じたハード・ソフト両面からの防災・減災対策

■地域の役割

■まちづくりの目標

■まちづくりの重点方針

- 西部地域に求められる役割を明確にした上で、まちづくりの目標を設定し、左記で整理した課題に取り組んでいくための具体的な方法（重点方針）をとりまとめる。

■地域の役割

現行計画で示された西部地域に求められている役割」をもとに、昨年度検討した全体構想案や、地域の課題の変化を踏まえ、西部地域の役割を再設定。

美しい自然景観と豊かな農水産物を活かした都市・農漁村交流を促進し、本市全体の観光周遊ルートを構築する役割

- 玄海国定公園に指定された美しい自然景観や、ふれあい自然塾ひぜんなどの自然体験に加え、豊富な農水産物に恵まれた地域であり、これらの資源を活用しながら、西側における都市・農漁村交流拠点を確立するとともに、北部地域との連携により、本市全体の観光周遊ルートを構築する。

■まちづくりの目標

西部地域の役割や課題等を踏まえ、地域が目指すべきまちづくりの目標を再設定。

美しい自然環境や豊かな農水産物などの地域資源の有効活用と、**周辺地域との連携による都市・農漁村交流の地域づくり**

- 美しい地形が広がる沿岸部の自然景観や、棚田等の地域内の観光・交流資源の保全・活用、第1次産業の振興・連携による都市・農漁村交流の拡大を目指す

重点方針1

自然公園法・景観計画等の活用による玄海国定公園に指定された美しい自然環境・景観の保全・活用

取組方針	主な取組み
① 玄海国定公園に指定された沿岸部の保全	● 自然公園法等の適切な運用による玄海国定公園に指定された沿岸部の保全
② 景観計画等との連携による景観の保全	● 大浦の棚田や白糸の滝を含むいろは島周辺の景観の保全
③ 棚田の保全や耕作放棄地対策等の促進	● 担い手（後継者）の確保・育成

重点方針2

自然を活かした体験型観光や、農水産物との連携による都市・農漁村交流の促進と地域振興

① 豊かな自然や美しい景観などの観光・交流資源の機能充実による観光交流の促進	● ぼたん緑の丘や遠見番所公園などの観光・交流資源の機能充実 ● 長崎県松浦市鷹島町と連携した交流の促進
② 自然をフィールドとした体験型観光や、さがほのか、佐賀牛、牡蠣などの農畜水産物の活用による都市・農漁村交流の促進	● ふれあい自然塾ひぜんなどの体験型観光施設の管理運営 ● にいこぼ204、ひぜん夢美咲等による産直販売の実施
③ 観光周遊ルートの道路改良や案内施設の充実など、観光客の回遊性向上を促進する取り組みの展開	● 県道、市道の道路線形の整備 ● 中央地域、北部地域および伊万里方面との観光交流を促すための案内標示の充実

重点方針3

地域における生活の質の向上による地域生活拠点の維持・再生

① 地域生活拠点を中心とした生活利便機能の維持・向上	● 地域生活拠点への生活利便機能の維持・集約 ● 離島における生活利便機能の維持 ● 離島航路の維持 ● 公共交通の利用促進および次世代モビリティの導入 ● 国道204号の安全な道路環境の整備促進 ● 公園の維持管理および適正配置の検討
② 自然災害対策をはじめとする暮らしの安全性の確保	● 居住における安全性の確保（災害リスクの高い区域からの移転促進、災害に強いインフラ整備など） ● 防犯灯の設置等による防犯まちづくりの推進 ● 所有者等による空き家等の適切な管理の促進 ● 自主防災組織の設置促進

地域の魅力
（特色・資源）

- 食や歴史・観光資源が多く、観光地としてポテンシャルが高い
- 4つの特徴的な離島を有している
- 海・山・川などの自然や、呼子の町並み、名護屋城跡など、景観に優れている

地域の課題
（改善点）

- 働く場や遊び場が少ないことによる若者の流出
- 空き家の増加や、担い手不足等により耕作放棄地も多くみられる
- 三大朝市「呼子朝市」の出店者減少・高齢化等による賑わいの衰退
- 消防団や行事の運営など、地域の担い手が不足している
- 交通の利便性が悪く、日常の買い物が不便

地域の
将来像

- 観光資源を活かした地域振興による賑わいのまち
- 伝統的な祭り文化を維持・継承するため、若者が暮らしやすいまちづくり（交通インフラの整備、子育て支援など）

地域に必要な
取り組み

- 空き家バンクを機能させる仕組みづくり
- 小売店舗の減少に歯止めをかける取り組み
- 企業誘致の推進（働く場所の確保）
- 既存の観光資源のPRや、新しい体験型観光の実施
- 農地の整備・維持管理
- 旧唐津地域へのバス本数の増便や通学定期補助など、公共交通の利便性向上に向けた取り組み

A 現行の都市マス策定当時（平成22年）の課題

■ 玄海国定公園に指定された沿岸部、および上場台地の広がる内陸部の自然環境・景観の保全が必要

- 屋外広告物の規制など積極的な景観規制による沿岸域の良好な自然景観の保全
- 湾内水質環境改善のための土砂流出防止対策などの取り組み

■ 「陣跡」「波戸岬」「港町の町並み」などの観光・交流資源の磨き上げと地域内の資源や産業の連携強化が必要

- 観光・交流資源の磨き上げによる観光・交流拠点としての位置づけの強化
- 呼子、鎮西単独ではなく、各地区の観光・交流資源の連携と展開

■ 観光・交流軸となる道路網の強化や周辺地域との連携により、西回り方面の観光・周遊ルート強化が必要

- 本市全体の観光周遊ルート確立に向けた玄界灘西回り方面の観光周遊ルートの強化

■ 生活の中心となる地域生活拠点の維持・再生と、生活排水対策や防災道路整備など、安全・安心・快適な生活空間整備が必要

- 安全・快適な暮らしのための対策（生活排水対策、急傾斜地等の危険区域、離島航路など）
- 各地域生活拠点（鎮西・呼子）の特性を踏まえた地域再生（臨港道路の整備、名護屋城跡並びに陣跡の活用など）

B 課題の再検討（「地域の現状」「住民ニーズの方向性」「現行計画の進捗状況」をもとに分析・考察）

<地域の生活を支える地域生活拠点の活力低下>

- 人口減少、高齢化等に伴う不良空き家の増加により、居住環境の悪化が懸念される。
- 若者が遊ぶ場や働く場が少なく、人口の流出や地域の担い手が減少している。
- 地域全域の高齢化率が40%を超え、高齢者の孤立化などのリスクがある。
- 小売店舗の人口カバー率が低く、日常の買い物が不便である。
- 急峻な地形のため、急傾斜地等の危険区域が点在している。
- 狭隘道路により住宅が密集している。
- 三大朝市「呼子朝市」の出店者減少・高齢化等により、賑わいが衰退している。

<豊かな自然環境と歴史的景観の保全>

- 美しい自然環境に関しては、満足度、期待度ともに高く、引き続き維持・充実が求められる。
- 地域内の豊富な観光・交流資源の活用が求められている。
- 唐津中心部方面からの観光客は多いものの、玄海町、西部（肥前）方面からの観光客は少ない。
- 営農者の高齢化と後継者不足から、管理されていない農地の増加が懸念されている。
- 降雨時の内陸部からの土砂流入により、湾内水質の悪化が懸念される。
- 食糧生産地や環境に優しいまちとしてのイメージ形成を担う役割が求められている。
- 港町に残る歴史的建造物等が空き家となったり、老朽化が進むことで、美しい町並みの景観が失われつつある。

<地域の移動や生活を支える公共交通の整備が不十分>

- 乗り合いタクシーなどの地域の実情に応じた交通手段の確保・強化が求められている。
- 集落内の狭い道路の改善が求められている。

<公共施設などの老朽化・市民のニーズに合わない施設などの増加>

- 公共施設のバリアフリー対策が十分でない。
- 沿岸部の豊かな自然・史跡などの地域特性を活かした公園の整備に関するニーズが高い。

<災害リスクの高まり>

- 地域内に土砂災害警戒区域等が点在しており、近年頻発する集中豪雨等による災害発生の危険性が高い。

C 地域の課題（「B 課題の再検討」の内容を踏まえて再設定した現在の課題）

課題1 沿岸部や上場台地の自然環境・景観の保全と活用による地域振興

- ① 玄海国定公園に指定された沿岸部の良好な自然景観の保全と、レクリエーション機能を有する観光・交流資源としての活用
- ② 持続的な生産確保に向けた農地の保全と、耕作放棄地の未然防止および再生

課題2 観光・交流資源の磨き上げと産業との連携強化

- ① 自然環境や歴史・文化、町並み景観など、地域の魅力ある観光・交流資源の磨き上げと農漁業との連携による観光・交流拠点としての機能強化
- ② 歴史的建造物の保全による町並み環境の整備

課題3 周辺地域との連携強化による広域的な観光・交流人口の拡大

- ① 中央地域、西部地域方面からのアクセス性の向上による観光周遊ルートの強化
- ② 呼子台場都市漁村交流施設（大漁鮮華、台場の湯）の活用や呼子朝市との連携による都市住民と地域との交流拡大

課題4 誰もが快適で安心・安全に暮らし続けることができる環境づくり

- ① 地域生活拠点における生活利便機能の維持・集約
- ② 地域の実情に応じた公共交通手段の確保（公共交通の利便性向上・利用促進、次世代モビリティの検討、安全な歩行空間の確保 など）
- ③ 離島における生活利便性の確保と離島航路の維持
- ④ 高齢者や子育て世代のニーズに応じた暮らしやすい環境づくり（公共施設のバリアフリー化、通学路の安全性確保 など）
- ⑤ 災害リスクに応じたハード・ソフト両面からの防災・減災対策

■ 地域の役割

■ まちづくりの目標

■ まちづくりの重点方針

- 北部地域に求められる役割を明確にした上で、まちづくりの目標を設定し、左記で整理した課題に取り組んでいくための具体的な方法（重点方針）をとりまとめる。

■地域の役割

現行計画で示された「北部地域に求められている役割」をもとに、昨年度検討した全体構想案や、地域の課題の変化を踏まえ、北部地域の役割を再設定。

全国的に知名度の高い食や歴史・文化資源を有する地域として、**周辺地域と連携を図りながら**、本市の観光交流をけん引する役割

- 全国的な知名度を誇る観光・交流資源を活かし、福岡・佐賀都市圏やアジア圏も視野に入れた交流人口の拡大を図るとともに、**唐房バイパスの開通など、観光周遊ルートの構築により、周辺地域との連携を図りながら**、本市の観光交流をけん引する。

■まちづくりの目標

北部地域の役割や課題等を踏まえ、地域が目指すべきまちづくりの目標を再設定。

玄海の食や大陸との交流の歴史・文化資源の活用による観光・交流の地域づくり

- 唐津市全域を見据えた上で、玄海の食や歴史など、地域固有の観光資源を有効活用するとともに、**唐房バイパスの開通効果を活かし、周辺地域との連携を図りながら**、地域の振興を目指す

重点方針1

自然公園法・景観計画等の活用による玄海国定公園に指定された美しい自然環境・景観の保全・活用

重点方針2

食や歴史・文化など、地域の観光資源の連携による観光・交流拠点としての機能強化

重点方針3

地域における生活の質の向上による地域生活拠点の維持・再生

取組方針	主な取組み
① 玄海国定公園に指定された沿岸部の保全 ② 土砂流出対策、生活排水対策等による湾内水質環境保全を推進 ③ 食糧基地である上場台地の維持・保全、および耕作放棄地の利活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然公園法等の適切な運用による玄海国定公園に指定された沿岸部の保全 ● 湾内の水質環境改善のための土砂流出防止対策の実施 ● 担い手（後継者）の確保・育成
① 呼子・鎮西両地区の観光・交流資源の融合・連携による観光・交流拠点の位置づけ強化 ② 観光・交流軸における市外・国外からの来訪者の周遊を促す取り組み（ハード・ソフト）の展開 ③ 農・漁業と観光の連携による地域活力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 呼子・鎮西両地区固有の観光・交流資源の機能充実および連携事業の実施。 ● 玄海海中展望塔のリニューアルオープンに合わせた回遊性向上の取り組み検討 ● 伝統的建造物群保存地区の制度を利用した呼子の歴史的町並みの保全 ● 案内表示などのサインの整備 ● 観光ボランティアガイドの育成 ● 唐房バイパスの開通による中央地域との連携強化 ● 呼子朝市、呼子のいかななどの魅力発信 ● 呼子台場都市漁村交流施設の管理運営
① 地域生活拠点を中心とした生活利便機能の維持・向上 ② 自然災害対策をはじめとする暮らしの安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域生活拠点への生活利便機能の維持・集約 ● 離島における生活利便機能の維持 ● 離島航路の維持 ● 公共交通の利用促進および次世代モビリティの導入 ● 公園の維持管理および適正配置の検討 ● 居住における安全性の確保（災害リスクの高い区域からの移転促進、災害に強いインフラ整備など） ● 防犯灯の設置等による防犯まちづくりの推進 ● 所有者等による空き家等の適切な管理の促進 ● 自主防災組織の設置促進